



第85回日本内分泌学会学術総会



ランチョンセミナー17

[日時]

2012年4月20日(金)
12:10~13:00

[会場]

名古屋国際会議場
第9会場
(会議室224 2号館2F)

尿酸代謝と メタボリック シンドローム

Metabolic Stress Eraser
(代謝ストレス消去剤)、
キサンチンオキシダーゼ
阻害剤の治療展望

座長

山本 徹也 先生

兵庫医科大学 副学長
内科学内分泌・代謝科 主任教授

演者

益崎 裕章 先生

琉球大学大学院 医学研究科
内分泌代謝・血液・膠原病内科学講座(第三内科) 教授

尿酸代謝とメタボリックシンドローム： Metabolic Stress Eraser(代謝ストレス消去剤)、 キサンチンオキシダーゼ阻害剤の治療展望

琉球大学大学院 医学研究科 内分泌代謝・血液・膠原病内科学講座(第二内科) 教授

益崎 裕章 先生

尿酸は血中においてビタミンCに匹敵する強力な抗酸化作用を有し、ヒトにおいては他の霊長類や哺乳類が持つ尿酸酸化酵素(尿酸をアラントインに変換する)が欠損しているために、痛風発症のリスクを負うことと引き換えに長寿を手にしたとも言われる。尿酸を生成するキサンチン オキシダーゼは肝臓のみならず脂肪細胞や血管構成細胞をはじめ種々の細胞に広く分布しており、生体全体で産み出される活性酸素(酸化ストレス)の源として一定の寄与を果たす。

生理的濃度で推移する血中尿酸が抗酸化など生体機能に重要な役割を演じる一方、メタボリックシンドロームに伴って異常に上昇した血中尿酸はURAT1などの尿酸トランスポーター分子群を活性化し、細胞の中に取り込まれた尿酸は一転、酸化ストレス誘導因子(pro-oxidant)として振る舞い、細胞機能障害を引き起こす可能性が示唆されている。無症候性高尿酸血症に対する適切な介入は尿酸塩沈着症の予防・改善のみならず、メタボリックシンドロームの病態解明、予防・治療における新しいプラットフォームである。高尿酸血症が残された血管病・代謝リスク(residual risk)であるのか否か、大規模な前向き介入試験の結果が期待される。

●略歴

平成元年 京都大学 医学部 卒業
平成4年 京都大学 大学院 医学研究科 博士課程入学(分子医学 専攻)
平成8年 京都大学 大学院 医学研究科 博士課程修了、医学博士
平成12年 ハーバード大学 医学部 招聘博士研究員・客員助教授
平成15年 京都大学 内分泌代謝内科 助手
平成20年 京都大学 内分泌代謝内科 講師
平成21年 琉球大学 大学院 医学研究科
内分泌代謝・血液・膠原病 内科学講座(第二内科) 教授

■専門分野

糖尿病学、内分泌代謝学、肥満学
肥満症における脂肪組織の機能異常、視床下部によるエネルギー代謝
制御機構、ホルモン・自律神経系による臓器連関、分子栄養学

■学会活動

日本内科学会(評議員、九州支部評議員、研修指導医)
日本糖尿病学会(九州支部評議員、専門医、研修指導医)
日本肥満学会(理事、評議員)
日本内分泌学会(評議員、代議員、九州支部評議員、専門医認定部会
内科試験委員、内分泌代謝科 専門医、研修指導医)
日本心血管内分泌代謝学会(評議員)
日本神経内分泌学会(評議員)
日本臨床分子医学会(評議員)
日本糖尿病・肥満動物学会(評議員)
高血圧関連疾患モデル学会(評議員)